

発行：2014年7月22日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦  
連絡先事務局 〒753-0221 山口市大内矢田北3丁目9-1 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083  
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

## 毎日新聞掲載

23 地域 2014年(平成26年)7月20日(日) 毎日新聞

### 放っておけない苦難の人を

タイ北部の山岳少数民族の自立支援に約20年間、無給のボランティアとして携わってきた。近年は1年の半分を現地です。自分が食べるのに困らなければいい。そういう性格なんだ」と笑う。

元は県の技術系職員。タイでの活動は25年前、周南市の曹洞宗原江寺住職、有馬美成さん(20)加した。

タイの少数民族を支援するNPO法人「シャンティ山口」事務局長 佐伯 昭夫さん(69)

94年に首都バンコクから約700キロ離れたモン族のセーンサイ村を初訪問。栄養失調から子どもが腹が膨れ、住居にトイレがない衛生環境に「大きなショックを受けた」という。

排せつ物を肥料にする日本の肥だめをヒントに、地中に埋めた処理槽で病原菌を処理し、栄養が残った残余物を畑に戻す循環型トイレの普及を進めた。

一方、同村に近いホイプム村では、強い農薬を使用する遺伝子組み換えトウモロコシ栽培により畑の荒廃が進んでいた。10年から、果樹やコーヒー豆など低農薬の作物に転換する試みを住民と話し合っ進めている。「自分の考えを押しつけない」のがモットーだ。「苦難の人を放っておけない。一緒に悩んで、成功したら共に喜ぶ。それが私にとっての報酬なのです」【蓬田正志】



「タイのコーヒー」は、輸出と大都市の消費のみであったが、テレビコマーシャルの宣伝効果も相乗し、国内生産も国内需要も急激に増えつつある。近年、北タイで「アラビカ種」の生産が始まり品質・味覚、共に評判がよくタイ人の消費がエスカレートして、北タイ地方でも喫茶店も増え、飲みはじめた人びとも目立ち、これから消費も多くなると見込む。日本でも「アラビカ種」は、普及が始まり人気も上昇中である。

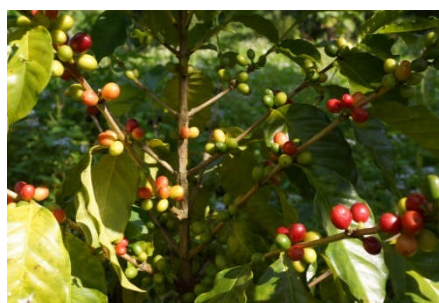
「無農薬の自然栽培」、近年収穫も順調で、品質も良く、加えて「オーガニック」として市場に出始めた。谷間の自然林を陽よけとして利用した栽培地。(標高 800メートル以上は、病虫害被害がほとんどないため適地として栽培を始めた。)



自然栽培のコーヒー



結実状況



収穫が間近い状況

## ホイドウア村 飲料水応急対策工事

農村開発 “みんなで協働” (飲料水導水作業) 「遺伝子組み換えトウモロコシ栽培」のため森林伐採の結果飲料水が枯渇した。このため、緊急導水工事を実施する。(ホイドウア村)

先行実施プロジェクト (ホイム村) から村民の技術指導により、ホイドウア村全員による配管埋設用掘削作業



配管工事ルート掘削作業 (1.2 km) (5/22)



村内配管施工



旧貯留槽補修作業



内面防水モルタル補修



貯水タンク設置連結



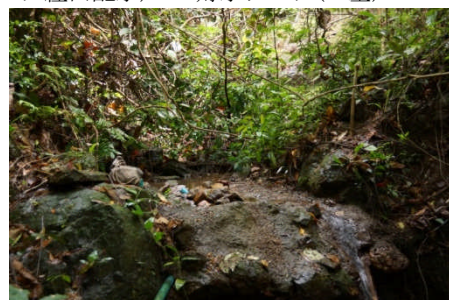
配水管(3ルートに分配+オーバーフロータンク経由配水) 貯水タンク(5基)



砂除け中継タンク (水源地から3 km)



少量ながら順調に導水(中継タンク)



水源地の状況 (6/23)



取水状況 (清掃・ごみ対策)

～環境支援募金にご協力をお願いします。～

20140722saeki